

2018年9月16日 茅ヶ崎教会での分かち合い 使徒ヤコブの手紙2：14～18
テーマ「茅ヶ崎教会共同体のビジョンとミッション」 (案)

集会祈願に「イエスを救い主と信じるわたしたちを、み言葉によって照らしてください。闇に迷うことなく、あなたへの道を歩むことが出来ますように」と祈りました。

6月に発表されましたビジョンの冒頭は、キリストとともに歩みとなっています。続いて、いつくしみあふれる生き生きとした共同体。このビジョンはまさにみことばからなっているのではないのでしょうか？聖霊を通して茅ヶ崎教会の共同体へ与えられたみことばではないのでしょうか。

第二朗読のヤコブの手紙は、この手紙の核心ともいえる部分で愛の行いの大切さを説いています。

「自分は信仰を持っているという者がいても、行いが伴わなければ、何の役に立つでしょうか。そのような信仰が、彼を救うことが出来るでしょうか。もし兄弟あるいは姉妹が、着るものもなく、その日の食べ物にも事欠いているとき、あなたがたのだけれど、彼らに「安心してゆきなさい。温まりなさい。満腹するまで食べなさい」というだけで、身体に必要なものを何一つ与えないなら、何の役にたつでしょう。信仰もこれと同じです。」

信仰の実践としての愛について、ミッションを見ますと、いつくしみの心で互いにゆるし合い、仕えあい、小さな人をたいせつにすると具体的な実践を語ります。

ビジョン・ミッションが配布されてから3か月が経過しています。何度か眺めています内に、これは茅ヶ崎教会共同体へ聖霊が与えてくださったものだという確信を強くしています。

皆様もご存じの通り、わたしたちは復活された主、世の終わりまで共にいると言われた主イエスを信じて、ここに今日集められ、呼び寄せられています。ですから、ビジョン・ミッションは私たちが協力して作業をした中に、神様からのビジョン・ミッションが示されたと思われませんか？

「いつくしみ」という言葉は、ビジョン・ミッションの両方にでてきます。それは、父なる神の慈しみであって、フランシスコ教皇様の「いつくしみの特別聖年」そしてその後の使徒的書簡「あわれみとあわれな女」にも具体的にのべられています。

また福音宣教への言及がないと言われる方もいらっしゃるようですが、イエス様も神の国

を言葉と行いによって告げられましたので、ヤコブの手紙のように行いから始めてみませんか？わたしのビジョン・ミッションへの思いを宣べさせていただきました。

今日のマルコの福音の後半で、イエスはペトロを叱って「サタン、引き下がれ。あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている。」と言われました。

今から 10 分位、周りの方とご自分の思いを分かち合ってみませんか？そして、神の霊に照らされて、神様の望まれるミッションの生き方を探しませんか？？

「私の後に従いたいものは、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのため、また福音のために命を失う者は、それを救うのである。」と、エゴの視点でなく、神の視点を持ちたいですね。